

「体験」から深まった、視覚障がいへの理解と私たちにできること ～アイマスク体験を通して～

地域支援スタッフの方々をお招きし、アイマスクを用いた福祉体験を行いました。子供たちは二人一組になり、アイマスクを着用する役と誘導する役に分かれて校内の歩行に挑戦しました。目隠しをした児童は足元を恐る恐る踏み出し、床の感触を確かめながら歩き、ガイド役の児童は周囲の状況を細かく声に出して伝えたり、手を引いて安全に導いたりしました。しかし、的確に指示を出したつもりでもペアの相手が壁に衝突しそうになるなど、伝える難しさにもどかしさを覚える場面もありました。

この貴重な体験によって、目の不自由な方々が送る日常生活への理解が一段と深まりました。些細な物でも歩行の妨げになる現実を知り、今後、街で視覚障がいのある方に出会ったときに自分たちができる支援について考えを巡らせました。児童からは「自転車の駐輪場所に気を付ける」「勇気を出して声をかけ、安全に歩けるよう手助けしたい」といった前向きな振り返りがあり、学んだことを実生活に生かそうとする様子が窺えました。「いつも通っている場所なのに全く別世界に感じた」という声もあり、体験して初めて分かる盲点にも気付くことができました。

子供たちの心に残る学びの機会を作っていただき、誠にありがとうございました。

